

低い食料自給率

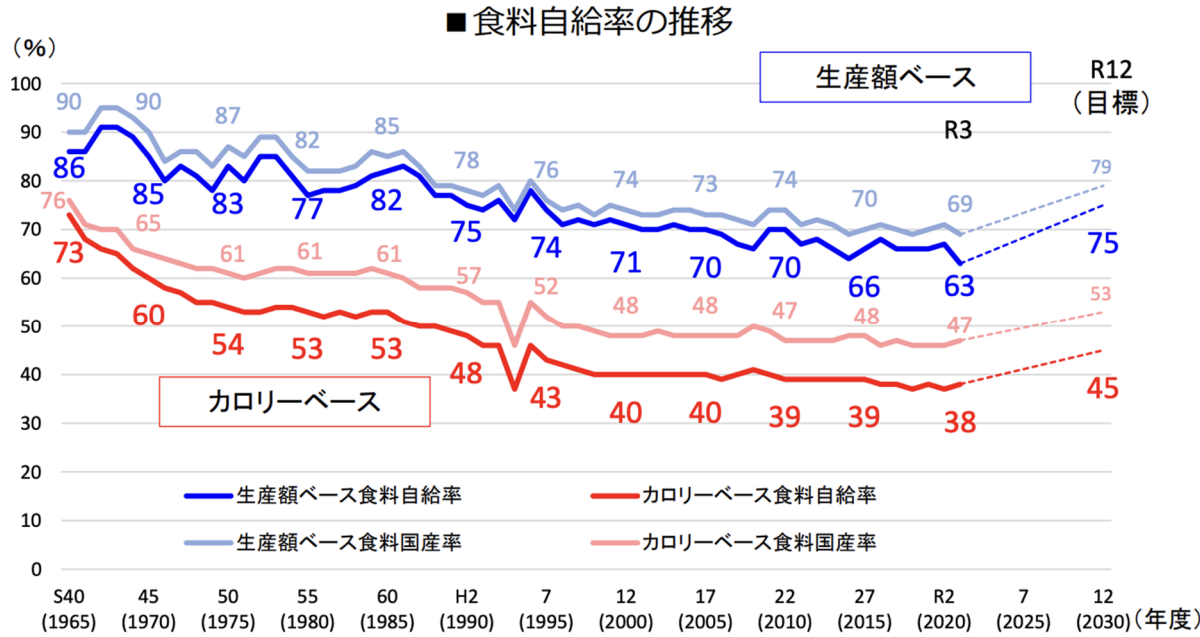


表 食料自給率の推移

(単位：%)

		昭和 60年度	平成 7年度	17年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度	5年度 (概算値)
品目別 自給率 (重量 ベース)	肉類 (鯨肉を除く)	81 (13)	57 (8)	54 (8)	55 (9)	54 (9)	53 (8)	52 (8)	51 (7)	52 (7)	53 (7)	53 (8)	53 (8)	53 (8)
	牛肉	72 (28)	39 (11)	43 (12)	42 (12)	40 (12)	38 (11)	36 (10)	36 (10)	35 (9)	36 (9)	38 (10)	39 (11)	40 (12)
	豚肉	86 (9)	62 (7)	50 (6)	51 (7)	51 (7)	50 (7)	49 (6)	48 (6)	49 (6)	50 (6)	49 (6)	49 (6)	49 (6)
	鶏肉	92 (10)	69 (7)	67 (8)	67 (9)	66 (9)	65 (9)	64 (8)	64 (8)	64 (8)	66 (8)	65 (9)	64 (8)	65 (9)
	鶏卵	98 (10)	96 (10)	94 (11)	95 (13)	96 (13)	97 (13)	96 (12)	96 (12)	96 (12)	97 (11)	97 (13)	97 (13)	96 (13)
	牛乳・乳製品	85 (43)	72 (32)	68 (29)	63 (27)	62 (27)	62 (27)	60 (26)	59 (25)	59 (25)	61 (26)	63 (27)	62 (27)	63 (28)
	魚介類	93	57	51	55	55	53	52	55	53	55	58	54	52
	米	107	104	95	97	98	97	96	97	97	97	98	99	99
	小麦	14	7	14	13	15	12	14	12	16	15	17	15	17
	大豆	5	2	5	7	7	7	7	6	6	6	7	6	7
供給熱量ベースの 総合食料自給率		53	43	40	39	39	38	38	37	38	37	38	38	38
生産額ベースの 総合食料自給率		82	74	70	64	66	68	66	66	66	67	63	58	61
飼料自給率		27	26	25	27	28	27	26	25	25	25	26	26	27
供給熱量ベースの 食料国産率		61	52	48	48	48	46	47	46	46	46	47	47	47
生産額ベースの 食料国産率		85	76	73	69	70	71	70	69	70	71	69	65	67

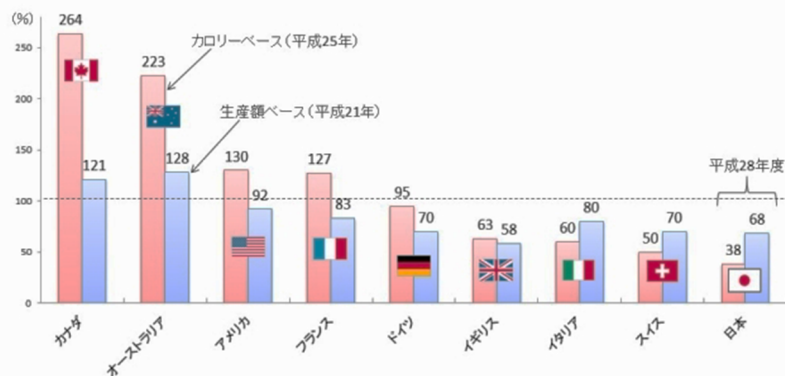
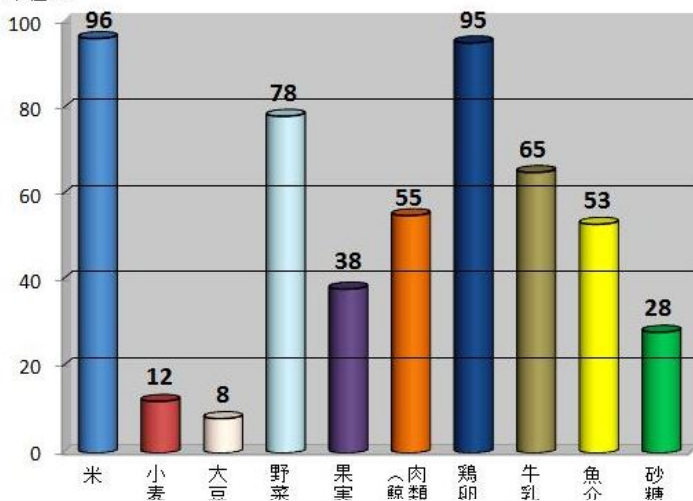
資料：農林水産省「食料需給表」

注1：品目別自給率＝国内生産量／国内消費仕向量×100（重量ベース）である。

注2：肉類（鯨肉を除く）、牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵、牛乳・乳製品の（ ）については、飼料自給率を考慮した値である。

## 平成24年度品目別食料自給率(重量ベース)

単位: %



今の日本で、国内でまかなえている農産物は米と鶏卵(ニワトリの卵)くらいです。

パンの原料の(1)や、醤油・みその原料になる(2)の自給率はとても低く、そのほとんどを(3…外国名)やオーストラリア・中国などから輸入しています。

そのため、日本の食料全体の自給率はカロリーベースでおよそ(4)%くらいしかありません。

こうなった理由は、

①日本人の食生活が変化して、パン・肉類・乳製品などを食べる機会が増えたこと。

②外国でつくられた農産物の方が安いこと。

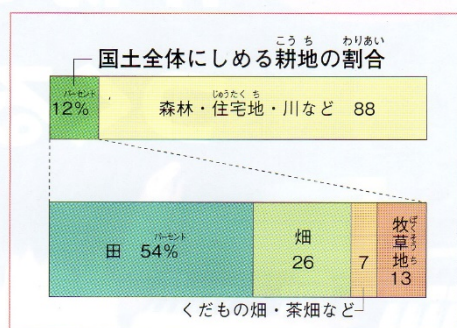
③農産物をもっと輸入するよう、外国から求められたこと。

④輸送技術が発達して、農産物を新鮮なまま輸入できるようになったこと、などです。

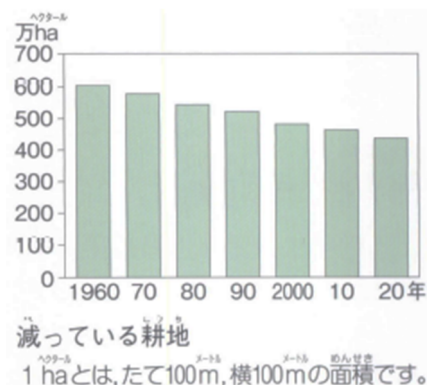
食料の輸入によって、消費者はいろいろな農産物を一年中、しかも安く手に入れることができるようになりましたが、農薬をどのくらい使っているか、輸入した食料が安全であるかどうか問題になります。

さらに、あまりに多くの食料を外国にたよりすぎると、輸入相手先の事情で食料を輸入しにくくなることも考えられます。このように、食料を外国にたよりすぎることはとても危険なことなのです。

## 減り続ける日本の耕地



日本の土地利用 (2011年)



減っている耕地

1 haとは、たて100m、横100mの面積です。



## 水田耕地面積の推移

日本の国土は約(5…分数で)が山地で、約(6…分数で)が森林です。もともと耕地が少ないうえに、大都市の周辺では耕地が住宅地に変わったところもあります。



手入れをする人のいない棚田

さらに、平野のはしから山にかけての中山間では耕作をやめる農家が増え、日本の耕地は減り続け、農家の数と農業で働く人の数は大きく減りました。

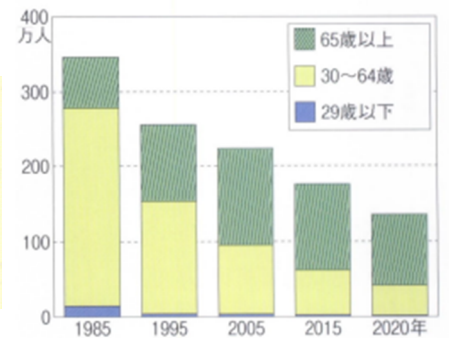
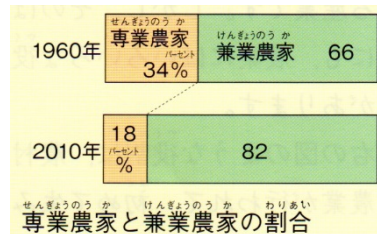
### 減り続ける農家

農家一戸あたりの平均耕地面積は約2.0haと規模の小さい農家が多くなっています。1haとは、たて100m、横100mの面積のことです。

また、農家は、収入の面から見て、農業だけを行う(7…?農家)と、農業だけでは生活できないためにほかの仕事も行う(8…?農家。ひらがな可)に分けられ、日本の農家は

(8)がそのほとんどをしめています。このように、農業だけで生活していくのはむずかしいことなのです。

さらに、農作物を作る目的の面から見ると、農作物を売ることとする(9…?農家)と、家族で食べる程度の農作物をつくる(10…?農家)に分けられますが、これらの農家のほとんども農業だけでは生活できていません。



おもに農業で働く人の数の変化

### すすむ高齢化

農業で働いている人の半分以上は、(11)歳以上の人のことをいう高齢者です。多くの農家では後継ぎが不足しており、農業で働いている人の数は、1960年のときのおよそ4分の1に減っています。

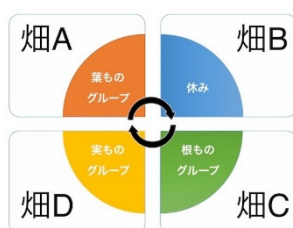
### 日本の農産物はなぜ高い?

日本の農業は品種改良を行い、せまい耕地で多くの人手や手間をかけ、多くの肥料を使って生産を増やす(12…?農業)のため、同じ面積で収穫する穀物の量をくらべると、日本は世界の中でも多い方なのです。

また、同じ耕地で、一年間に二種類の作物をつくる(13…漢字で?作)を行ったり、ビニールハウスなどの施設を用いて栽培したりすると耕地を有効に利用でき、せまい土地でも収穫量を増やすことができますが、多くの人手をかけ、肥料や施設を利用すれば農業生産に多くのお金がかかります。

そのため、日本の農産物は外国でつくられたものよりも高くなって価格での競争に負けてしまうのです。

しかし、日本の農産物は安全でおいしいとの評価を受けています。さらに、和食が世界でも人気になっており、日本の農産物の輸出額は増えてきています。国も日本の農産物の良さを世界に広めていこうとしています。



追記…同じ作物を一年間に2回つくることを(14…漢字で?作)といいます。

近郊農業でのレタスや長崎県のジャガイモづくりで行われています。

そして、一つの畑でいろいろな作物をつくることは(15…漢字で?作)といい、連作障害を防ぐために北海道で行われているのが(16…漢字で?作)です。



## 農業のもたらす恵み

農業は、わたしたちの食料である米・野菜・畜産物などをつくるほかにいろいろな役割があります。

たとえば、田に水をたくわえることで、洪水を防ぐ役割をしています。そのため、田も森林と同じように(17…?の?)といわれています。

また、田は気温を調節し、生物のすみかをつくり、きれいな水をつくってくれています。そのため、環境をそこなわないように、化学肥料や農薬を使わないで、(18)による土づくりを行う(19…?栽培)に取り組む農家が増えています。こうした土から生まれたものを土に返すと

いう考え方にもとづいた農業を(20…?農業)といいます。わたしたちは、このようにしてつくられた農産物を買うことによって環境を守るための努力を応援することができるのです。



農業・農村のもたらすめぐみ

## 食べ物が地球環境にあたえる影響

(21…カタカナ)とは、食料の輸送量(t)と輸送距離(km)をかけあわせた数値のことです。

たとえば、北海道産のじゃがいもを東京に輸送する場合と、アメリカ産のじゃがいもを東京に輸送する場合を考えてみます。仮に同じ量だったとしたら、アメリカの方が輸送距離が長いので、この数値が大きくなります。つまり、輸送距離が長いほど多くのエネルギーを消費し、二酸化炭素の排出量も増加するため、(21)が大きくなって環境負荷が高いことが分かります。そのため、日本でも国産の食材を選ぶことや、食品ロスを減らすことが求められているのです。



また、輸入された食品は、どこでどのように生産されたかが分かりません。そこで日本で禁止された農薬が使われていないか、病虫害や有害な物質が使われていないかを調べる(22)が必要です。この(22)所はおもな港や空港の近くにあります。厚生労働省の管轄です。